



2015年
8月10日
NO.388

九州旅客鉄道労働組合
福岡市博多区博多駅前2丁目3-23
TEL 092-472-7950(代)
URL http://www.jr-krwu.org
発行人/許斐元文 編集人/宮路 享

JR九州労組 第24回定期大会

上場後を見据えた展望で、目指すべき働き方の実現へ

中央執行委員長の許斐で、JR九州労組第24回定期大会にご参集の代議員、特別代議員、傍聴者の皆さん大変ご苦労さまで。さて、2015春闘は、組合員・家族が総がかりの取り組みをしていただいた結果、7年ぶりとなるベースアップを実施することができました。今年の春闘で、有額回答を引き出したことや、嘱託再雇用社員の65才到達者に対する慰労金の新設や夏季手当の増額など、一定の成果はあったと思います。来年の2016春闘におきましても今年以上の回答を引き出すよう取り組んでいく所存です。また、4月に行われました統一地方選挙におきま



議長団の中村氏(左)、前原氏(右)

JR九州労組は、7月8・9日、北九州市「ステーションホテル小倉」において第24回定期大会を開き、「安全最優先の風土づくり」「組織の強化・拡大」「新中期労働政策ビジョン」「チャレンジ2018」に基づく労働条件の向上、「政治的政策課題の実現」をはじめとする、2015年度の運動方針を満場一致で決定するとともに、株式上場後を見据えた目指すべき働き方、あるべき働き方の実現にむけ、組合員全員で運動を創り上げていくことを確認した。

組織機構見直しで、執行部体制を強化

大会には、執行部、代議員、特別代議員、来賓、傍聴者、220名が出席、議長団に、中村秀人代議員(福岡)、前原弘志代議員(鹿児島)を選出、議事が進められた。

大会構成員を代表して、あいさつに立った許斐中央執行委員長は「JR会社法改正法案が可決・成立したことで、国鉄改革の労使の

JR九州労組の取り組みとして①安全最優先の風土づくり②政策課題の実現と労働条件の改善に向けた取り組み③組織強化の取り組みの3点について所信を述べるとともに、会社とは是々非々で対峙する姿勢を崩すことなく、解決にむけて取り組んでいくとの考え方を示した。また、組織機構・運営の見直しについても触

れ「今回の見直しは、JR九州労組の組織強化・拡大につながることを確信している」と中央本部と福岡地方本部の一体的運営に理解を求めた。【詳細別掲】質疑では、経過や運動方針を補強する立場から27名の代議員・特別代議員が発言。効率化施策をはじめとする業務課題への対応や、安全最優先の取り組み、高齢者やパートナリ社員の労働条件の改善、次世代を担う役員・活動家の育成など、方針案を補強する意見が多く出され、担当執行部の答弁の後、中原書記長が集約答弁を行い、提案されたすべての議題を満場一致で採択した。

役員改選では、上野中央執行委員長、木村中央執行委員が退任、新たに延時中央執行委員長をはじめとする17名の役員を選出、JR採用の役員が半数以上を占める体制となり、次世代への継承の歩みが着実に進んでいることを感じさせる実りある大会となった。

感謝申し上げます。先日JR会社法の一部を改正する法律案が可決し、同法案が成立しました。JR会社法改正法案が今国会において可決・成立したことにより、国鉄改革の労使



て、JR九州労組の組織内候補として7名を擁立し、組合員の皆さまが一丸となって取り組んでいただいた結果、候補者全員の当選を果たすことができました。この場をお借りして心より

の使命でありました株式上場及び完全民営化の道筋が整ったわけです。確かに経営安定基金の取り扱いについては、一定の評価ができますが、上場後、赤字基調の鉄道事業収支を改善し、

いて、私の考えを三点申し上げ、挨拶に代えたいと思います。一つ目は、安全最優先の風土づくりにむけた取り組みについてです。まずは、昨年12月に熊本

れるとともに、組合の主張を会社方針等に数多く反映させることができました。この間の関係各位の取り組みに対して敬意を表します。2002年2月22日に発生した鹿児島本線列車追突

において、一歩間違えれば正面衝突という重大事故につながりかねない重大インシデントを発生させてしまいました。今回のインシデントは、結果として衝突を回避できましたが、良かったでは済まされない事象であり、鉄道事業を基幹事業とする当社にとって、二度と引き起こしてはならない事象であります。

原点に立ち返り、安全最優先の風土を創ろう

今後とも安定的な経営を行うために、会社は更に効率的な業務運営やコスト削減などの経営施策を考えていくと思っております。そこで、株式上場後を見据えた組合の取り組みにつ

乗務センター分会から提起を受け、本年1月に開催した「全乗務員職場分会代表者会議」での意見を基に会社と協議を重ねた結果、会社から乗務員職場の諸課題解決にむけた考え方が示さ

事故や、2005年4月25日に発生した福知山線列車脱線事故を教訓に、安全を最優先にする企業風土づくりにむけて取り組んでまいりました。しかし、JR九州において5月に長崎本線に

また、JR連合の最重点テーマである「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の完遂にも取り組んでいます。JR九州では先日、協力会社の社員が亡くなるという死亡事故が発生してしまいました。お亡くなりなら



第24回定期大会【7月8・9日 北九州市】

許斐中央執行委員長あいさつ【続き】

方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

J R九州やグループ会社において小さな事象、事故の芽は多く発生しており、今年度も労働組合のチェック機能を最大限発揮し、職場からの声を反映した取り組みを実施していかねば、いざい大きな事故が発生しかねないと感じているところではあります。鉄道の安全は働く者の職場の安全が確保されていることが大前提であることは言うまでもありませんが、今一度、「安全

は輸送業務の最大の使命である」との原点に立ち返り、本当の意味での安全最優先の風土づくりをいむけ、組合員全員で取り組んでいただくようお願い申し上げます。

二つ目は、政策課題の実現と労働条件の改善にむけた取り組みについてです。

昨年、私たちは新たな中期労働政策ビジョンとして「チャレンジ2018」を策定し、今後5年間の到達目標と株式上場を展望したあるべき労働条件を明らかにしました。

その内容は、目先の労働条件の向上に促されるのではなく、株式上場後も見据えた将来展望を念頭に置き、私たちが「目指すべき働き方」「あるべき働き方」を実現するために、組合員が情報を共有し一丸となって取り組んでいかねばならないと提起しているものです。

今後、会社は様々な経営施策を提示していただくことが想定されますが、安全が脅かされたり、雇用が守れなかったり、労働条件が低下するような施策であれば、堂々と反対してまいります。

です。今後も様々な課題に直面することがあると思いますが、会社とは「是々非々」で対峙する姿勢を崩すことなく、課題解決にむけ取り組んでいくことをお誓い申し上げます。

次に政治的政策課題の解決にむけた取り組みです。鉄道事業を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況に変わりはありません。今後もJ R連合と連携を取りながら、引き続き、鉄道事業を支え続ける環境づくりのための政策誘導を求めていかねばならないと考えています。

しかし、このような政治的政策課題を解決するためには、私たちの運動に理解を示していただく議員が多く必要となります。政治的政策課題の実現が労働条件の向上にもつながるのです。

9月に市議会議員選挙が行われますが、今回は、私どもの準公認候補として2名が立候補を予定されています。候補者2名の当選を果たすため、組合員と家族が一体となった取り組みを展開していただくよう要請しておきます。

三つ目は、組織の強化・拡大にむけた取り組みにつ

いてです。私達が先輩から引き継いできたものを次世代へ引き継いでいくため、委員長就任後に「継承元年」ということを申し上げ、2年目に入りました。これは私が6年前に書記長に就任した時から考えていたことであり、そのためには組織機構や運営方法、専従定数を含めた経費の削減等に着手しなくてはならないと思ってきました。その結果、最大の地方本部であります福岡地方本部と中央本部が一体運営を行うことで効率的な運営ができ、迅速な情報伝

達や次世代育成と継承に資する体制が整うとともに、出向者を含めた組合員の世話役活動ができると結論づけたものです。

今回、この組織機構・運営の見直し、J R九州労組の組織強化と拡大につながることを確信しているところではあります。代議員各位をはじめ組合員の皆さまにご理解いただきますようお願い申し上げます。

一方で、J R九州連合の組織強化・拡大も図っていく必要があります。昨年度、新たにJ R九州鉄道営業労働組合とJ R九州システム

ソリユーションズ労働組合が誕生しましたが、未だにグループ会社全体の約3割でしか組合が結成されていません。今後は早急に全グループ会社で組織化を実現できるように取り組みを強化していく所存です。

今定期大会において、代議員各位が活発で真摯な議論をしていただき、満場一致で方針案をご承認いただくことをお願い申し上げます。中央執行委員会を代表しての挨拶とさせていただきます。

組合の力を発揮し、 労災防止に取り組みよう

松岡 裕次



平素よりJ R連合の取り組みに対するご理解と協力に感謝申し上げます。J R連合も6月に第24回定期大会を開いた。改めて安全、組織、政策課題及び中期労働政策ビジョンについて、問題提起を行いたい。

福知山線列車脱線事故から10年、鉄道の失った信頼

及び誇りを取り戻すべく、安全最優先で取り組みを進めてきたが、J R東日本山手線の支柱倒壊事故、J R九州の異線への進入による重大インシデント等が立て続けに発生している。背後要因を含めた徹底的な原因究明が必要であり、労働組合として、不断に不安全事故を撲滅させていくことが努めである。また「すべてのJ R関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要課題として取り組んできたが、残念ながら今回のJ R連合の大会以後、2件の死亡事故が発生している。是非とも、労働組合の力を発揮し、J R九州労組及び

エリア連合と協力して、労災対策に取り組んでいただきたい。

J R連合は16年前に民主化闘争を宣言し、今日まで一定の成果を得てきた。J R会社法改正法案の国会審議で、J R北海道の島田社長が「革マル派と疑われる組織による介入があると疑われることがないように、毅然とした対応を行う」と答弁された。この言葉を信じ、今後目に見える形での民主化が進んでいくであろうと期待している。

J R九州においては、J R会社法改正法案が可決・成立し、平成28年度中の株式上場の道筋が整う状況に

なった。3年前に中長期政策課題として「三島・貨物経営安定化PT」をはじめとする3つのプロジェクトを立ち上げ提言を行った。今後も政策集団として実現に向けて取り組んでいく。中期労働政策ビジョンについては、昨年数値目標等の見直しを図り、様々な労働条件の向上に向けて取り組んできた結果、昨年を上回る多くの単組がベアを獲得することができた。2016春闘は既に始まっており、今後賃金対策委員会での議論を重ねていきたい。

最後に、男女平等参画について、女性の地位向上及び企業内における男女平等を推進していかねばならない。是非ともJ R九州労組においても取組みの展開を図られることを要請する。

主な来賓の紹介

(順不同・敬称略)

社民党福岡県連代表 淵上 貞雄	民主党福岡県連支部代表代行 城井 崇	連合福岡副会長 品川 浩二	北九州市産業経済局総務政策部長 柴田 秀治
J R九州労組職員団長 村山 弘行	交運共済九州事業本部長 福田 博州	九州労金専務理事 宗安 勝敏	九州交運労協事務局長 越智 直樹

祝電・メッセージ

(順不同・敬称略)

福岡県知事 小川 洋	滋賀県知事 三日月大造	衆議院議員 高木 義明	衆議院議員 原口 一博	衆議院議員 大串 博志	衆議院議員 緒方林太郎	衆議院議員 野間 健	参議院議員 大久保 勉	参議院議員 野田 国義	元衆議院議員 城井 崇	元衆議院議員 楠田 大蔵	日本郵政グループ労働組合 西日本鉄道労働組合	全労済福岡本部	全国交運共済生協九州事業本部	明治安田生命	J R北海道労働組合	J R東日本労働組合	ジュニオール・イーストユニオン
---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	---------------------------	---------	----------------	--------	------------	------------	-----------------

写真コンクール

東海旅客鉄道労働組合
西日本旅客鉄道労働組合
四国旅客鉄道労働組合
日本貨物鉄道産業労働組合
ありがとうございました。

☆最優秀賞
長崎業務センター分会
池部 卓磨
「22時4分。本日の最終業務に向けて」

◎優秀賞
博多駅連合分会 大庭 寛之
「ゼロまでいこう!!安全に!!」

代議員の真摯な討議で 経過・方針を補強!!

効率化施策・次世代継承が焦点に



濱田代議員

熊本 濱田 享二
▽熊本本地では、5期目の「松尾哲也」大牟田市議と、2期目の「宮崎保」人吉市議の当選にむけて取り組んだ。選挙活動を通じて若手組合員のレベルアップに繋がったと感じている。



西村代議員

▽地域住民より駅構内の伐採の要望が挙がっている。伐採作業の一元化はできないのか。予算を一元化した管理及び伐採等の委託化を要請する。

福岡 西村 毅
▽乗務員勤務制度等の一部見直しの主たる問題は、

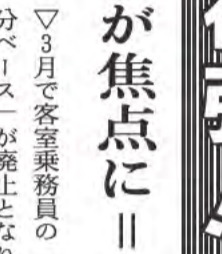


後藤代議員

超過勤務前提の交番作成ということがある。会社はワーク・ライフ・バランスの充実を図るならば、制度の改正ではなく、適正な要員配置により解決される問題であり、現行の制度を今後も守り続けてほしい。
▽小倉運転区で50才台の未加入者が加入した。数年にわたり、粘り強く取り組んだ成果である。

大分 後藤 俊司
▽2015春闘では7年ぶりにベアが実施され、本部は一定の評価をしているが、結果に満足している組合員はどの程度いるのか、適正な成果配分はできているのか、疑問に感じる。

▽JR九州労組の発展に寄与された先輩方の力を借り、積極的な人材育成のために活躍してもらおうなど、退職者連絡会の意欲的な運動のサポートをお願いしたい。
▽退社式の勤務の取扱については、労働協約等で制度化されるよう強く求める。



立川代議員

▽3月で客室乗務員の「大分ベース」が廃止となり、7名が退職という結果を重く受け止め、総括及び検証を行わなければならない。
▽平成5年に新たな乗務員勤務制度を作成した。組合主導で制定された画期的な制度であるが、人件費抑制のために制度を見直すのであれば、我々は大きな決断を行わなければならない。



久木崎代議員

長崎 久木崎 功
▽効率化施策については、雇用の確保、安全・サービスの維持・向上、労働条件の低下を招かないことを前提としていることは理解するが、組合員に伝わっているのか疑問である。本部は協力しながら、主張すべき点は粘り強く主張するという「対立」の面を、全組合員にアピールしていくことが大切である。

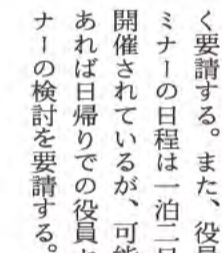
▽JR九州労組を一度脱退した若手組合員を、関係分会の世話役活動により、再加入させることができた。

このような取り組みが、各分会に波及するように、分会組織の取り組みを強化していく。



立川代議員

鹿兒島 立川 大地
▽毎月の常任委員会に多くの常任委員が出席できるよう、工夫しながら開催している。今後も組合活動の重要性や楽しさを伝えられるよう企画していきたい。



後小路特別代議員

▽青年・女性委員会役員セミナーの内容については、次回も参加したいと感じるようなセミナーの企画を強く要請する。また、役員セミナーの日程は一日二日で開催されているが、可能であれば日帰りの役員セミナーの検討を要請する。

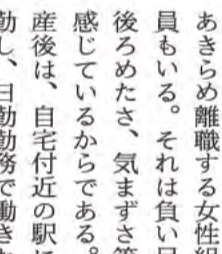
▽現在の乗務員勤務制度に至った考え方や、経緯が無視された会社の説明には憤りを感じている。運転部会は、運転士の勤務の特性を考慮し、2700時間以内という特定の年間拘束時間を設定した交番とし、超過する交番は労働時間Bで対処する方法を検討し、在宅

体養時間を確保する運動を展開していきたい。
▽大分宮崎空港間の特急列車の4両ワンマン運転という考えられない事案が示されている。JR九州労組がしっかりと手綱を握り締め、雇用、安全、サービスの確保と労働条件の維持・向上にむけ、取り組みを展開することを要求する。



熊手代議員

福岡 熊手 桃子
▽女性の職場環境は、以前より改善は図られているものの、仕事と育児の両立をあきらめ離職する女性組合員もいる。それは負目、後ろめたさ、気まずさ等を感じているからである。出産後は、自宅付近の駅に転勤し、日勤勤務で働きたいとの声や、日勤勤務の短時間勤務の適用、特急列車の改札業務を行いたいという声も挙がっており、女性が働きやすい制度づくりを要請する。



森永代議員

▽ハウステンボス等の4両ワンマンが実施されたが、多客期はホーム上に多くの

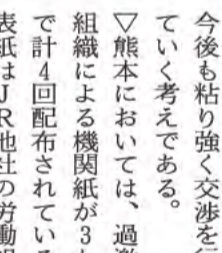
お客さまが滞留し、非常に危険な状況であった。ハウステンボス駅のホーム拡張と列車非常停止装置の設置を要請する。

お客さまが滞留し、非常に危険な状況であった。ハウステンボス駅のホーム拡張と列車非常停止装置の設置を要請する。
▽2015春闘で7年ぶりのベアは評価する一方で、組合員からは多くの不満の声が挙がっているが、再度中央本部の見解を求める。



仲本代議員

熊本 仲本 友三
▽新玉名駅ホーム担当業務の見直しについては、熊本本地も会社に申し入れを行い、専門協議会を開催した。今後も粘り強く交渉を行っていく考えである。



久松代議員

▽熊本においては、過激派組織による機関紙が3か月で計4回配布されている。表紙はJR他社の労働組合関連の記事が記載されており、裏面はJR九州の各種効率化の記事が掲載されていたことを報告しておく。
▽無人駅の簡易委託化については、引き続き議論を重ねてもらいたい。

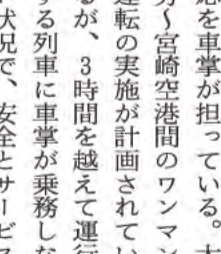
▽3月に客室乗務員の大分ベースが廃止となったほか、

「2014年度 機関紙コンクール」

- 最優秀賞 …… 福岡地本「情報トライ」
- 優秀賞 …… 大分地本「あくせす」

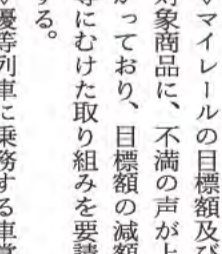
おめでとうございます

4月には、小倉駅ホーム係員も廃止されたことにより、お客さまの対応や異常時対応を車掌が担っている。大分宮崎空港間のワンマン運転の実施が計画されているが、3時間を越えて運行する列車に車掌が乗務しない状況で、安全とサービスは確保されるのか。また、乗務員勤務制度等の一部見直しを検討されており、本部には毅然とした対応をお願いしたい。



川野代議員

▽鹿兒島地区連合分会は、執行委員会の定例開催等意思統一を行っているが、今後、若手役員をどのように育成していくかが課題である。本部にはセミナー、学習会を通じ、具体的な例をあげた職場運動の指導を要請する。



四ツ井代議員

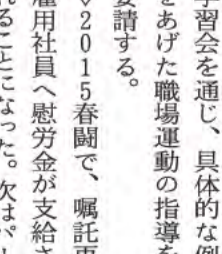
▽2015春闘で、嘱託再雇用社員へ慰労金が支給されることになった。次はパート社員への慰労金等の支給がされることを確信している。

▽博多電力区の手動シャッターは幅が大きいため出勤に時間を要している。電動シャッターへと交換された。▽同一価値労働、同一賃金



川野代議員

の観点から55才以降の待遇改善を強く訴えておく。



前田代議員

▽転勤に伴う事前通知は、実態として7日前に行われているが、十分な期間といえるものではない。本部には継続して改善に向けて取り組んでいただきたい。

福岡 四ツ井 勉
▽博多電力区の手動シャッターは幅が大きいため出勤に時間を要している。電動シャッターへと交換された。▽同一価値労働、同一賃金



原代議員

▽昨年12月に急逝した組合員の遺族に対して、多くの義援金をいただいたことに、対し感謝申し上げる。今回、会社との協議で、取扱い誤りに対する「調査期間の目安」「運輸部長面談実施時期の見直し」など早急な見直しを実現した。安全に関する声やヒヤリ・ハットの対応も、意思統一が図られるようお願いしたい。



堤特別代議員

▽乗務員勤務制度等の一部見直しについては、労働強化や要員削減の効率化が主体であり、本部には断固反対の立場を貫いてもらいたい。

運動部会 堤 清輝

▽乗務員職場では要員が逼迫している状況である。要員需給の状況調査をお願いする。また、指導体制の見直しで、乗務員指導を担当する本社の業務も含め、指導体制の強化が必要である。▽車両検修業務の移管について、設備による効率化は否定するものではないが、グループ会社に業務移管を行うことには疑念を感じて

いる。
▽運輸部会地方分科会の継続を求める。
▽会社の指示で緊急車両の運転及び助手席で機器操作に携った場合の手当の支給を求める。



小橋口代議員

福岡 小橋口公二
▽新玉名駅に係るホーム担当業務の見直しについて、延べ7日間の緊急職場集会を開き、67項目の意見に集約し、会社へ要求を行った。今後他の駅へ波及しないようお願いする。

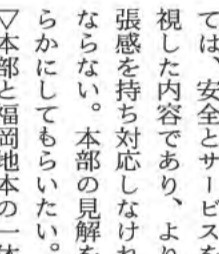
▽九州新幹線全線開業で、新たなモニター制度が確立されたが、所得税が大幅に増額されることで、児童手当のカット、奨学金の借り入れ不可などの問題が生じている。モニター制度の廃止を含め、改善をお願いしたい。



延時代議員

鹿児島 延時 勝敏
▽客室乗務員「大分ベース」の廃止を集約せざるを得なかったが、廃止の報道で、依然より応募者が減少したように感じており、雇用に対する不安となっているの

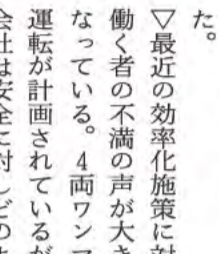
ではないかと危惧する。
▽指導体制見直しについて、地方は指導の要員が不足していること訴えているにも係らず、更なる要員減は理解できない。



大分 佐藤 守洋

▽大分宮崎空港間の特急列車のワンマン運転については、安全とサービスを軽視した内容であり、より緊張感を持ち対応しなければならぬ。本部の見解を明らかにしてもらいたい。

▽安全衛生委員との意見交換を行った。委員からは出された意見に対し、早期に対応しているとのことであった。



延時代議員

▽最近の効率化施策に対し働く者の不満の声が大きくなっている。4両ワンマン運転が計画されているが、会社は安全に對しどのような考えを持っているのか。列車の安全運行は、車内秩序の維持・向上が必要であり、4両ワンマン運転の車内秩序の維持は、誰が守るのかということ強く訴えたい。

▽これまで以上に厳しい時代が訪れることは間違いないが、役員が先頭に立ち、組合員と家族のために、共に頑張っていこう。



長崎 梅津 翔馬

▽分会における世話役活動の充実により、若手労組員を再加入させることができたことを報告する。

▽長崎駅周辺は「九州新幹線西九州ルート建設計画」等の関連工事が進められているが、今年度の計画について、誘導詰所の移転について、今日に至るまでスケジュール等の説明がなされていない。また、浦上駅仮設舎及び早岐駅新駅舎移転の際も、工事スケジュールの変更などにより、業務資材搬入に苦労したと聞いている。本部も関係箇所に対して働きかけをお願いしたい。



熊本 三角 公二

▽ディーゼル機関車の部品類が製造中止となっていることも多いことから、その都度添乗等を行わなければならないが、組合員への負担が

大きい。会社はJR貨物と共にディーゼル機関車の開発及び改修等を勉強することを明らかにしているが、早急な対応を求める。



福岡 井口 祥一

▽4月の統一地方選挙において、福岡市議会議員候補の田中丈太郎氏に対し、多くの組合員にご協力いただいた。選挙を通じ、組織力強化に繋がったと確信している。今後も様々なことを経験しながら、JR九州労組の一員として、頑張っていきたい。

▽改正労働契約法について意見集約の取り組みを行ったが、長期的な安定雇用の確保に安心を抱くパートナース社員もいる一方、雇用環境の変化について、不安を抱く社員も多く存在する。本部は女性の意見を聞き、会



青・女 松下 雄太

社との交渉に臨んでもらいたい。
▽女性特有の課題解決のため、女性役員の選出は必要不可欠である。今後とも活動を展開していく。
▽青年・女性委員会が果たす役割は日々増しており、青年・女性委員会にも専従の設置を強く要請する。

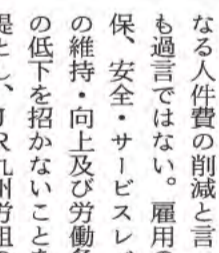
社との交渉に臨んでもらいたい。
▽女性特有の課題解決のため、女性役員の選出は必要不可欠である。今後とも活動を展開していく。
▽青年・女性委員会が果たす役割は日々増しており、青年・女性委員会にも専従の設置を強く要請する。



鹿児島 上原 浩二

▽株式市場に一步步前進している。市場に係らず、労使ともに襟を正し、安全の確保にむけた取り組みを強化しなければならぬが、上場を控え、様々な効率化施策が計画されている。単なる人件費の削減と言っても過言ではない。雇用の確保、安全・サービスレベルの維持・向上及び労働条件の低下を招かないことを前提とし、JR九州労組の運動の理念である「協立と対立」のもと、毅然とした態度で臨むべきである。

▽乗務員勤務制度等の一部見直しについては、本部は、現時点受け入れることはできないと英断を下した。J



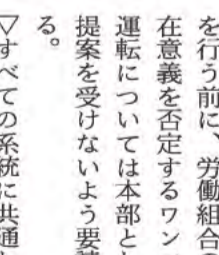
長崎 岩口 保則

▽先日、長崎本線肥前竜王



【代表討論】

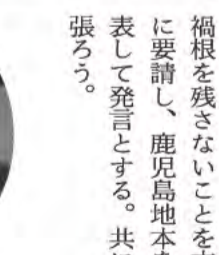
R九州労組には組合民主主義が存在していると実感したところである。
▽大分宮崎空港間のワンマン化は特急列車の4両ワンマン運転であると想定される。ワンマン運転の実施の条件及び安全確保の議論を行う前に、労働組合の存在意義を否定するワンマン運転については本部として提案を受けられないよう要請する。



鹿児島 上原 浩二

▽すべての系統に共通している問題として、非番等で遅くまで時間外労働を行っていることが上げられる。会社は労働時間管理の徹底を図るとしているが、管理者が厳正に管理できていないのが実態である。業務量を勘案し、時間外労働が発生しないように配慮すべきである。

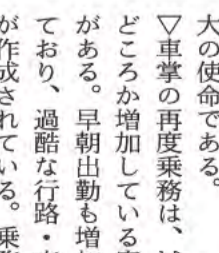
▽最後に、本部と福岡地本との一体的運営について、メリット及び具体的な組織運営を示してほしい。組織は生き物である。今回の大胆な組織機構の見直しを日々検証し、必要であれば速やかに対処を行い、将来に禍根を残さないことを本部に要請し、鹿児島地本を代表して発言とする。共に頑張ろう。



長崎 岩口 保則

▽2016春闘は、株式市場を目前にし、会社としても厳しい立場を貫くことが予想される。これまで以上に全組合員の行動と目標を一致させ、組織強化とそれに伴う活動方針を共有できるように本部に強く求めたい。

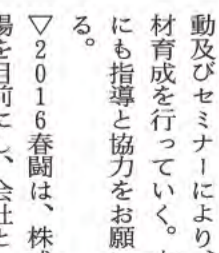
駅において「かもめ」が同一番線に進入し、正面衝突寸前という事象が発生した。また、東海道新幹線の車内で発生した火災は、乗客20名以上が巻き添えとなったが、安全と安心をお客さまに提供することが鉄道の最大の使命である。



鹿児島 上原 浩二

▽55才以降の賃金体系について「同一価値労働・同一賃金」であることを今一度考えるべきである。高齢者や、嘱託再雇用社員の組合員が安心して、安全で働きやすい職場環境を確保できるように更なる検討を求めたい。

▽組合運動の原点は職場であり、分会活動が活性化することにより、それぞれの仲間での共有を図ることができるものである。今後も意見交換、サークル活動及びセミナーにより、人材育成を行っていく。本部にも指導と協力をお願いする。



長崎 岩口 保則

▽2016春闘は、株式市場を目前にし、会社としても厳しい立場を貫くことが予想される。これまで以上に全組合員の行動と目標を一致させ、組織強化とそれに伴う活動方針を共有できるように本部に強く求めたい。



玉井代議員

大分 玉井 成之

▽3月のダイヤ改正で客室乗務員の大分ベースが廃止され、20年の歴史に幕を閉じた。48名の客室乗務員については、JR九州本体やグループ会社で働くことになったが、退職した者もあり、雇用を守れなかったと大変反省しているが、1年以内に職場がなくなるのが分かっていながらも係らず雇用したという会社の考えが理解できない。今後、博多ベース及び鹿児島ベースが同様の雇用問題が生じないようにお願いしたい。



坂本代議員

熊本 坂本 和哉

▽昨年不慮の事故で他界した組合員の遺族に対する義援金について、多くの皆さまから多大なる義援金をいただき、ご家族の皆さまが大変感謝されていたことを報告する。

立した。株式上場後は、新たな時代への挑戦が始まる。賃金をはじめとした労働条件の向上を目指して、グループ労組が一体となった運動を組織の総力を挙げて取り組んでいただきたい。



岩永代議員

福岡 岩永 康志

▽これまでの労使間の努力により、来年、JR発足30年目の節目の年に株式上場の運びとなる予定である。今後は、株式上場の実現並びにその先の未来にむけ、今一度、明確な姿を全組合員で確認していくことが必要である。今後の活動のあり方としては、組合員の参画を具体的にどのように実現させていくのか、現場の声をいかに反映させていくのか、本部の指導力は勿論各分会が果たす役割が最も重要であり、組合員の積極

り良い方向で交渉が行われるよう取り組んでいく。▽JR各社において重大インシデントが続いている。最近では、想定外の事故が多く、不注意で命を落とすようなことがないよう、慣れによる不安全行動を無くし、基本動作を着実に実行することをお願いしたい。

▽今後の課題は山積している。JR九州労組はこれまで、会社施策に協力するとともに、対立しながら踏ん張ってきたと評価している。熊本地本は、本部の新体制にエールを送るとともに、JR九州労組が達成感に充実した労働組合となるよう本部と連携し取り組んでいく。

組織をあげて具体的・精神的に取り組んでいかなければならない。特に、女性が悩むことなく働き続けることができる職場環境と制度改善の早急な実現を強く要請する。



北村執行委員

●組合員の教育については、ニーズを汲み取った内容の充実に努めているが、今後とも組合員の意見を取り入れ、教育内容の更なる充実と努めていきたい。

代議員の発言に対し 執行部より真摯な答弁

●乗務員勤務制度等の一部見直しについては、労働時間の短縮を求めてきた主張に逆行するものであり、現時点で、到底受け入れられないものではない。運転部会より具体的な提起がなされているため、今後設置される「職場の働き方改善プロジェクト」(仮称)を中心に取り組みしていきたい。

●新玉名駅ホーム担当に係る業務の見直しは、安全の確保など一定の整理を図れたことから、提案に至ったものである。関係分会より多くの意見が上がったからこそ、具体的な議論ができたと考えており、博多新幹線乗務所の組織力の強さを実感した。本部としても、支社・地本間の交渉経過を踏まえ、どのように取り扱っていくか判断したい。引き続き、課題解決に向け、地本と連携を図りながら取り組んでいく。

●マイレール増収作戦については、昨年度から目標額の見直しを図られ、対象商品の拡大を求めているが、

から、様々な問題を職場及び家庭で議論できる運動の展開を強化することを要請する。最後に、JR九州労組の進展と、分会・職場の更なる活性化を重ねて訴え、福岡地本を代表しての発言とする。

●乗務員職場諸課題については、本部としても重く受け止めており、誠意を持って対応していきたいと考えている。一定の改善も図られたと考えているが、今後の検証活動が重要であり、今後も引き続き、労使間で確認した取扱いが確実に履行されているか検証してほしい。

●今回の指導体制の見直しは職場の規模、要員等の観点から実施できるのか課題として認識している。



上野執行副委員長

●他労組及び未加入からの組織拡大が図られた。今回の組織拡大については、分会、地本及び本部が連携を取って、取り組んだ成果であると認識している。今後とも、組織強化・拡大に向け取り組んでいきたい。また、この間の活動経過等を含めた取り組みを、各種セミナー等を通じて共有していきたい。

●退職者連絡会については、県の高齢・退職者団体連合と連携を取りながら、運動領域の拡大に努めていきたい。

●各部会については、実態を鑑みて、今回規約改正を実施した。分科会を設置すべきとの考えに変わりはなく、引き続き議論を深めていく。



木村執行委員

●今回の組織機構・運営の見直し後の検証及び組合財政の確立の観点から、来年度も早期に組織財政検討委員会を設置することとし、検討を深めていきたい。



吉田執行委員

●女性の職場環境の構築にむけ、妊娠後及び育児終了後の勤務に対する考え方並びに女性管理者の配置について、今後交渉を行う。



芦原執行副委員長

●家族形態及び居住環境等も考慮し、職種を選択できる制度の構築を求めている。つわり等の休暇の新設は、制度の勉強会等に取り組みでいくが、引き続き女性が働きやすい職場風土づくりを構築していきたい。

●選挙を通じ、次世代に継承する取り組みを展開していきたい。政策課題の実現には、地方自治体との連携は重要であり、引き続き積極的な協力をお願いする。当面は9月の市町議会議員選挙の組織内候補の必勝にむけ協力を要請する。

新たな発想と勇気で、多くの成果を勝ち獲ろう

中原書記長集約答弁【要旨】



集約答弁を行う前に、青の特別代議員及び各地本の代表討論に対する答弁を行う。女性役員の育成につ

いては、中央執行委員にも1名の女性役員を選出しており、引き続き女性役員数の更なる拡大を図っていきたいと考えている。青・女の専従枠については、限られた専従定数枠の中では困難である。中央執行委員を中心に青・女の世話役活動を充実させていきたい。また、労働時間管理の徹底については、今後とも会社に質していく。仕事の進め

方に問題があるのか、要員が適正に配置されているかなど時間外・休日労働が発生する背景について追求していく。

●経過・方針(案)に対し27名の代議員及び特別代議員から発言があった。本部として今後の活動に反映していくことを約束し、運動の基調として提起している4点をもとに、集約答弁を行う。

安全の確立

国鉄からJR九州へ経営形態は変化した。安全の確立を追求する姿勢は何ら変わるものではなく、経営基盤を支える土台となる安全が疎かになってはならない。引き続き安全を最優先とする企業風土、職場風土の構築に向け、JR九州労組が先頭に立ち、全力を挙げて取り組むこととする。

組織の強化・拡大

今年度も新入社員の全員加入を勝ち獲ることができた。引き続き、来年度の新入社員をはじめとする新規採用のパートナー社員等の全員加入を地本・分会と連携して取り組む。

一方、出向者及び高年齢者を中心とした組合脱退が依然として続いている。要因としてある組合費についても昨年の定期大会において引き下げ、出向者及び高年齢者を対象とした集会和激励会を開催し、取り組んでいるが、抜本的な解決には至っていない。今一度、組合活動の原点である世話役活動の重要性を全員で共有し、組合の姿が見え、組合員の顔が見える運動を職場からつくり上げよう。

労働条件の向上

新たな中期労働政策ビジョンのもと取り組んだ2014年労働協約改訂交渉においては、仕事給昇給等における育児休業及び介護休業の取扱いの見直しなど6項目の前進を勝ち獲った。

また、2015春闘においては7年ぶりとなるベアの獲得に加え、嘱託再雇用者の退職慰労金の新設を勝ち獲るなど、一定の成果を上げることができた。しかしながら、まだまだ多くの課題が山積しており、本定期大会後の2015年労働協約改訂交渉に全力を挙げて闘うこととする。平成28年度までの「株式上場の実現」が確実視される中、会社は、より一層の経営の効率化とコスト削減を推進することとし、6月3日に今年度の効率化施策を明らかにした。各種効率化施策への対応については、JR九州労組の労使関係の基本スタンスである「協力と対立」の理念に立脚し、会社とは是非を問わず対応していく考えである。この考えは株式市場に係らず変わるものではない。

政策課題の実現

JR九州の株式市場にあたって最大の懸案であった経営安定基金の取扱いについて一定の方向性を見出し、また、JR会社法改正法案が成立し、株式市場の環境は整ってきている。しかし

ながら、基幹事業である鉄道事業を取り巻く環境は、大変厳しい状況であると言わざるを得ない。平成28年度末で期限が切れる税制特例措置は三島特例・承継特例で約60億円の効果が大きく、経営に与える影響は大きく、今後も鉄道ネットワークを維持していくうえで、この取扱いが重要な課題だと認識しており、JR連合、JR連合国会議員懇談会、JR九州労組地方議員団等と連携をより一層図り、税制特例措置の継続をはじめとした政策誘導の実現に向け、取り組みを展開していく。

今年9月に実施される市町議会議員選挙における2名の組織内候補をはじめとし、中間地方選挙で推薦する候補の必勝に向け、当該地本、支部及び分会と連携を図った取り組みを展開していく。同時に、組合員の政治意識の向上及び選挙戦を通じた組織強化・次世代育成にも繋げていくこととした。

本定期大会で新たに提起した「職場の働き方改善にむけた取り組み」については、様々な系統の職場の諸課題の解決に向け、JR九州に働く労働者・組合員が働き甲斐を持てるものに改善すべく「職場の働き方改善プロジェクト」(仮称)を設置し、今後、本格的に議論を深めていくこととする。

本部として、提起を受けた多くの意見を真摯に受け

2015年度新役員体制

中央執行委員長	許斐 元文(56)	専再
中央執行副委員長	延時 勝敏(56)	専新
書記長	芦原 秀己(51)	専再
中央執行委員	中原 博徳(53)	専再
	久保田耕二(55)	専新
	田頭 正憲(54)	専新
	北村 公次(40)	専再
	宮路 亨(40)	専新
	原川 朋大(34)	専新
	大久保 浩(40)	専再
	小山 麻希(36)	専新
	住吉 一家(35)	専再
	本多 洋一(35)	専再
	森永 克章(35)	専新
	鎗光 俊勝(32)	専再
	吉田 春菜(31)	専再
	井口 祥一(30)	専新
会計監査員	白石 勝之(57)	専再
	高木 宏(52)	専再
	北村 幸一(37)	専再

新たな体制のもと、組合員の皆様とともに頑張っていきます。